

あすかのみや  
明日香宮より藤原宮に遷居りし後に、  
志貴皇  
子の作らす歌

五一番

采女の袖吹きかへす 明日香風 京を遠み いたづら  
に吹く

藤原宮の御井の歌

五二番

やすみしし わご大君 高照らす 日の皇子 あらたへ  
の 藤井が原に 大御門 始めたまひて 埴安の 堤の  
上に あり立たし 見したまへば 大和の 青香具山は  
日の経の 大き御門に 春山と しみさび立てり 畝傍  
の この瑞山は 日の緯の 大き御門に 瑞山と 山さ  
びいます 耳梨の 青首山は 背面の 大き御門に よ  
ろしなへ 神さび立てり 名ぐはしき 吉野の山は  
影面の 大き御門ゆ 雲居にそ 遠くありける 高知る  
や 天の御陰 天知るや 日の御陰の 水こそば 常に  
あらめ 御井の清水